
BLACK ROOM

藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B L A C K R O O M

【Nコード】

N 7 3 1 9 B

【作者名】

藍

【あらすじ】

アナタが持っているその鍵は、一体何処の鍵ですか？誰もが持っている一つの鍵。開ける勇氣ありますか？

暗く狭い箱の中

自分の形さえわからない暗闇の中で

背中を丸めて横たわっていた

残酷な時計の針はいつしか消えて

季節は私をおいてった

私はこのまま床へ沈む

深く 深く

もう上がってこれなくなるくらい下へ 下へ

それが私の望むなの

どうか私を呼ばないで

どうか私を忘れて下さい

記憶の中へ行きたくないから

記憶で生きたくないから

きつと私は穢てるもの

この世界の誰よりも

私の両手は真っ赤

私の貌は真っ赤

私の癖は真っ赤

そして一番

私の心が真っ赤

だって

眩しい程輝く銀色の物体が赤へと変わりながら胸の中へおさまって
いるのだから

だから光なんて当てないでこれ以上 理解なんてしたくないから

嗚呼 どうか

哀れな私を探そうなんてしないで

どうせ アナタも暗闇に堕ちてしまうから

嗚呼 どうか

哀れな私に触れようとししないで

どうせ 私の色を被って闇色に染まってしまうから

私なんかを見つけないで

もう助かりはしないから

どうせアナタは他人でしょう？

私とアナタは違うもの

同情心だけでヒトを助けようとししないで

この胸に飾り付けられた物体で

真っ赤に染まるのはアナタだから

恨みだけでも

憎しみだけでも

人は生きていけるのよ

これが

人を偽って 嘘吐いて

快楽の先で溺れた私の

成れの果て

このどす黒く冷え切った私の世界で
アナタは何を求めるの？

この黒く塗り潰された箱の中で
私の周りで、もう光を浴びることが無くなった残骸共に成りたいの？

アナタがこの箱の鍵を持っていたくらいで
自分に使命があるなんて想わないで

それは単なるアナタの妄想

闇は決して光になんてなれないのよ

いくらアナタが努力しようと

私とアナタとでは住む世界が違うのよ

この枯れ果てた世界で何を望む？

この枯れ果てた空に何を祈る？

この世は残酷で、理不尽で、不平等で
アナタの味方になってくれるものは一つも無い

仕方ないのよ　これが現実なのだから
私にはもう　還る場所なんて存在しないのよ

例えばアナタが私を連れ出したとしても
光の中で生きていける程　強くなってるの

もう　生きたくないの

こんな世界で　生きたくないの

私はこのままずっと　ここで溺れていたいのよ

この箱から抜け出して
アナタの世界で生きていけると思う？

こんな穢た私を
誰も信じてない私を

誰が信じてくれるの？

私はアナ達を認めない

私はきつとアナを傷付ける

だって

憎らしいんですもの

その幸せそうな顔が

希望に満ち溢れたその笑顔が

その先にある絶望に背を向けて、受け入れなくて

まるでその感情がずっと続くものだと思ひ込んでいる

だから 憎らしいのよ

だから私は 喜んで人を傷付ける

この胸のナイフを引き抜いて 笑顔でアナの赫い血を被ってあげる

痛くなんてないわ

散々人を偽ってきたんだもの

『心』なんて麻痺してて使い物にならないから

ねえ

私は何の為にこの箱に入っただろう？

もう外の世界に居たくなかったのよ

もう何も知りたくなかったこれ以上 私を知りたくなかったんだよ

……ッ！！

アナタなんか何がわかる？

この恐怖が空漠が虚無が

アナタにわかるわけないでしょう

出てってよ

私の世界から出てってよ！

アナタが出ていかないと言うのなら
仕方ないわ

私はまた、アナタの血で一段と赫く染まってあげる

一度付いてしまったシミは拭えないのなら
とことん 汚してやる

サヨナラ

赫く染まったナイフを引き抜き

より一層鮮やかになる様にアナタの胸へ

アナタが悪いのよ

私の世界を踏み躪ったから

「大…丈夫、大丈…夫だ…よ」

何を…言っているの？

来ないでよ 私に触れないでよ

もう人の温もりなんて知りたくないから

離してよ……ッ！

「泣かない…で」

アナタは私の頬に触れ 涙を拭う

お願いだから触らないでよ

激しく脈打つ アナタの鼓動と温もりが
私を揺さ振る

そして

急激に落ちてゆく脈と体温

ああ……ああッ！！

全身を駆け巡る激痛

ホラ

アナタは私を助けることが出来なかった
アナタは私に罪を与えた

皆そうだった
ここにいる屍は皆そうして死んでった

何も出来ずに

私を残して

うわ————ツ！！！！

暗く狭い箱の中
独りの少女が赫い赫い涙を流した

憎しみの涙を
絶望の涙を

（後書き）

はじめまして。または、お久しぶりです。今回は詩っぽくなってしまいました。それにまた長く・・・

今度は反省して短くしたかったのですが。でも、ここまで読んでくださってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7319b/>

BLACK ROOM

2010年12月14日20時59分発行